

センターだより

第58号

令和2年12月18日 発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

研究員の研究成果について

青森県総合学校教育センター研究員の2年間の研究成果として、毎年、当センターホームページに研究論文を掲載しております。また、研究段階の中間発表として、「あおり教育研究発表会2020」において11月13日に発表することとしておりました。

昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、当該発表会が中止となったことから、研究成果については、音声入りスライドとして、当センターのホームページで中間発表する準備を進めております。ついては、多くの関係者に視聴いただきますよう、よろしくお願いいたします。

また、最終的な研究成果については、研究論文として令和3年3月にホームページで報告させていただきます。

研究成果の中間発表

公開場所 青森県総合学校教育センターホームページ

掲載期間 令和3年1月21日(木)～令和3年2月5日(金)



※視聴にはログインIDとパスワードが必要となりますので、下記までお問い合わせください。

青森県総合学校教育センター 教育相談課 大野 仁

TEL 017-764-1988

e-mail ohno-jin@m22.asn.ed.jp

第44回全国特別支援教育センター協議会研究協議会（青森県大会）

令和2年10月30日（金）に第44回全国特別支援教育センター協議会研究協議会（青森県大会）が行われました。例年は全国の教育センター特別支援教育担当者が一堂に会し、研究協議等を行っていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、WEBによる開催となりました。当日は59機関から約200名が参加し、障害のある子供たちへのICT活用に関する取組事例等について協議を行いました。

（研究主題） 子供の学びをつなぐ特別支援教育

● 文部科学省講話

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長 八田 和嗣 氏

● 国立特別支援教育総合研究所事業説明

国立特別支援教育総合研究所 理事 梅澤 敦 氏

● 全体発表・協議「特別支援教育における学びをつなぐICT活用」

〈発表1〉「読み書きに困難のある児童生徒へのICT機器等を活用した学習指導・支援の研究について」

京都府総合教育センター 研究員 佐藤 雄太 氏

〈発表2〉「特別支援学級及び通級指導教室担当教員が抱えている困難について～ホームページを活用した調査と情報提供～」

青森県総合学校教育センター 指導主事 森山 貴史



大会長挨拶
（当センター所長）



視聴会場の様子

参加者からは、「様々な運営の工夫で、参加者の方々との距離を近くに感じた大会でした。たくさんのお話をさせていただきました。ありがとうございました。」
「皆さんの声を直に聴くことができたのも、オンラインだからかもしれません。全国の皆さんの元気が伝わってきました。明日にいかしていきましょう！」というメッセージをいただきました。

新型コロナウイルス感染症対策が研修講座に与えた影響について

県立学校の初任者研修を皮切りに先生方の挨拶が玄関ホールに響き渡る…。繰り返されてきた光景が一変し、突然やってきた“予測困難な時代”に持続可能な研修の形を模索した令和2年の春となりました。

研修施設である当センターの役割に鑑み、困難な状況だからこそ学校現場を支えるために事業継続を模索しました。

センターでの集合形式がとれない4月、5月は右のとおり多くの講座で方法を変更しての開催を実現しました。並行して、6月1日の集合形式再開に向けて「新型コロナウイルス感染症に係る県主催イベント・行事等の開催の考え方と開催時における対策について」に基づき、新しい生活様式を取り入れた研修講座に向けて準備を進めました。当面、集合形式における「緊急事態宣言が解除されていない地域からの県外講師」は招聘せず、オンラインによる講義で研修事業の継続を図ることとしました。5月に試験的に始めたオンライン開催が事業継続に不可欠なものとなる中、心配の声があったのも事実でした。「オンラインでは研修効果が低下する」「講師の魅力が伝わらず目的が達成できない」

4月、5月開催の研修講座への影響

変更して開催としたもの				開催中止
資料提供	課題提出	次回へ内容を移動	オンライン	
4講座	23講座	2講座	3講座	2講座

内容理解と開催方法の関連

「理解できた」「分かりやすかった」 講師、受講者ともに オンライン	たいへん 思う	思う	やや思う	あまり思わない + 思わない
講師のみオンライン	14	6	2	0
講師のみオンライン	67	27	2	0
オンラインなし(通常)	109	38	5	0

$\chi^2=3.05, p=.55$

はたして、研修効果はオンライン開催か通常開催かという開催方法と関連があるのでしょうか？左は、義務教育課が5月、6月に開催した13講座について、受講者アンケートをまとめたものです。統計的には内容理解について、オンライン開催であっても通常開催と同様の理解が得られることが判りました。このことから、当センターではオンラインでの研修を開催方法の一つとして今後も積極的に採り入れていく考えです。また、今回アンケートを行っていない「資料提供」「課題提出」については、方法として慎重に選択し、事後の丁寧な検証・改善が必要と考えているところです。

今後も、当センターは研修事業を安心・安全な環境で展開し、教育関係職員の資質・能力の向上と、本県学校教育の充実振興に全力で取り組んでいきたいと考えています。

今年度の研修講座の様子

産業教育課

D23 使ってみよう！電子黒板活用講座

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の先生方を対象に、校内にあるICT機器を有効活用していただくために、昨年度から開催しています。

今年度は6月3日(水)に開催し、14名の先生方から申し込みがありました。

講座の目標は次の三つです。

- ① ICTの活用場面や活用形態について理解する
- ② 電子黒板と他のICT機器との繋ぎ方を習得する
- ③ 分かる、できる授業のために効果的なICT活用方法を習得する

GIGAスクール構想で、一人に一台のタブレット端末が導入されますが、1時間の授業すべてでタブレット端末を活用するわけではありません。まずは、今までどおり電子黒板等に『大きく映す』といった実際の操作体験などを通して、児童・生徒の興味関心を高める活用や、課題を明確につかませ、思考や理解を深めるなど教育効果が高まる使い方ができるように実施しました。



高校教育課

高校教育課では、今年度、24の研修講座（教科研修20講座、教科外4講座）を開催しました。いずれの講座も新学習指導要領に関する内容を取り入れており、令和4年度からの実施に向けて、学校現場の先生方のお役に立てる研修内容にしました。その中でも、今年度、新規開設した「D02 高等学校 総合的な探究の時間研修講座」と「D05 高等学校における特別支援教育講座」には、多くの先生方に参加していただき、以下のような感想が寄せられました。

【D02 高等学校 総合的な探究の時間研修講座】

- ・ 先行事例をたくさん聞くことができ、充実した講座だった。
- ・ 開講してほしかった講座なので大変ありがたいと思っている。
- ・ 総合的な探究の時間について考える非常に貴重な場となった。

【D05 高等学校における特別支援教育講座】

- ・ 生徒観が大きく変わるほど多くのことを学ぶことができた。
- ・ 困難を生じている生徒への見方や捉え方を整理することができた。
- ・ 複数の目で生徒を見ることの大切さを改めて確認できた。

次年度も充実した研修講座になるように、一層の工夫に努めます。多くの皆様の受講をお待ちしております。



リクルート進学総研
キャリアガイダンス編集長
山下 真司 氏の講義



国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育推進センター
笹森 洋樹 氏の講義

義務教育課

義務教育課が担当している31の研修講座（教科研修28講座、教科外研修3講座）を、今年度はオンラインでの講義も取り入れ、無事に終えることができました。受講者アンケートでは、多くの受講者から好評価をいただくことができました。

受講者からは、次のような感想が数多く寄せられました。

- オンラインではあるが、県外で学ぶことが困難なときに、このような機会を設けていただいたことに感謝している。
- 演習内容は、どれも考えたくなる、話したくなる、聞きたくなる仕掛けのある活動だった。子供にとって、得た知識を使うことが楽しいと思わせる活動であった。
- 高品質のレプリカの屏風を使った鑑賞の演習は興奮を誘うものだった。ファシリテーターとしての質問の仕方も改めて大事だと感じたし、実践していきたいと思った。
- 人を育てるために教師としてできることを考え、生徒たちの自主的な活動につなげていきたいと思った。

また、受講者アンケートからは、改善に向けた貴重な御意見もいただいています。次年度の開催に当たって、研修内容が少しでも充実したものとなるように、一層の工夫を図ります。忙しい学校現場とは思いますが、少しでも多くの先生方に受講をお願いいたします。



特別支援教育課

特別支援教育課では、今年度は教科外の研修講座として8講座（右表参照）を開催しました。

受講者は、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室の担当教員に限らず、日頃から教育上特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対して指導・支援をしている小、中、高等学校等の通常の学級の担当教員の参加も多数ありました。

講座は、基本的内容を押さえた講義の他、各校での実践発表、受講者同士の協議、演習等を行い、最後には振り返りの時間を設けました。学んだことを自身の教育活動にどのように取り入れるかを検討していただくことで、より深い学びにつながっていったという感想も多く寄せられました。

次年度も現場の先生方の教育活動の一助となるような講座を目指して、内容の充実を図っていきたくと考えております。皆様の受講をお待ちしております。



【令和2年度 特別支援教育課担当講座】

D15 特別支援教育新担当教員研修講座
(知的・通級コース)

D16 特別支援教育新担当教員研修講座
(自情・弱視・難聴・肢体・病弱コース)

D17 「自立活動」研修講座

D18 ICTを活用した授業づくり
(特別支援教育) 研修講座

D19 教育相談 (特別支援教育) 研修講座

D20 通常の学級のユニバーサルデザイン
研修講座

D21 発達支援と教材教具研修講座

D22 特別な教育的支援を必要とする児童生徒のニーズに応じた指導実践研修講座



教育相談課

今年度教育相談課では、学年主任研修講座、生徒指導主任・主事研修講座の職務研修及び「今日から始める」シリーズの、いじめ・不登校・学級（HR）集団づくり・保護者対応・教育相談の5講座、「『気になる子供』のかかわり方研修講座」、「子供への緊急対応研修講座」の教師の生徒指導や教育相談に関するスキルアップのための研修講座を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、教育相談課の6月迄の職務研修講座及び「いじめ対応」研修講座は資料提供及び課題提出のみでしたが、徐々にオンライン開催や指導主事の代替開催となり、実際に外部講師にお越しいただくことのできた研修講座は、「不登校」、「教育相談」の2講座のみでした。その中から「今日から始める不登校対策研修講座」について紹介します。

東京家政大学相馬誠一教授の講義では、不登校児童生徒に対する「チーム学校」の取組や「個人支援シート」の使い方等、たくさんの実践のヒントがありました。受講された先生からは、「個人で働きかけるのではなく、チーム学校、各機関、SSW、SCなど、学校全体で検討をして共通理解を図り、事例に即したアプローチを考えたい」や、「事例に関する具体的なアドバイスがいただけた研修は貴重であった」という感想がありました。

どの講座もたくさんの方に参加していただき、先生方の意欲・関心の高さを窺い知ることができました。目の前の子供たちに少しでも発揮していただけたら幸いです。今後も先生方の教育実践をサポートし、子供たちの笑顔につながるよう、研修講座を更に充実させていきたくと考えております。

